「住んで良かった」「住み続けたい」と誇れるまちへ

土地区画整理事業で進む都市基盤の整備　子育て支援の取り組みも広がる

工場見学&夜景遊覧クルーズ　産業の魅力を広く発信

東海市長　花田　勝重

東海市は昭和44年に誕生し、県内有数の生産量を誇る洋ランや全国有数のフキの産地として、また中部圏最大の鉄鋼基地として、農工商のバランスのとれた発展を遂げてきました。

こうした本市の産業の魅力を広く発信する取り組みとして、テレビ愛知制作の「工場へ行こうⅢ　AMAZING　FACTORY」とタイアップし、「工場見学&夜景遊覧クルーズ」と「夜景遊覧クルーズ」を実施しています。工場見学では、日本製鉄、愛知製鋼、大同特殊鋼、カゴメの工場を見学でき、遊覧クルーズでは名古屋港の工場群や巨大なガントリークレーン、名港トリトンなどを船上からお楽しみいただけます。普段、陸地からは見ることのできない工場の姿や、海上から眺める迫力ある工場夜景など、東海市ならではの魅力を感じていただける機会をつくり、多くの皆様に本市の魅力を知っていただけるよう取り組んでいます。

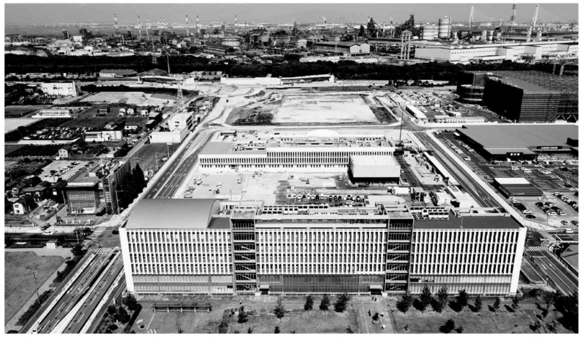
今後も、第7次東海市総合計画の将来都市像に掲げる「ともにつながり　笑顔と希望あふれるまち　とうかい」の実現に向け、市民・地域・事業者の皆様と力を合わせ、誰もが安心して暮らし、希望を持てるまちづくりを進めてまいります。

33年に人口11万6千人目指す

東海市の花田勝重市長は2026年度施政方針で「まちづくりを一段と発展させステップアップすることで、誰もが『住んで良かった』『これからも住み続けたい』と心から誇れるまち」を目標に掲げた。各地区では土地区画整理事業により都市基盤の整備が進む。また、子育て支援の取り組みも広がる。少子高齢化が進展する中、住みやすいまちを創ることで、33年に人口11万6千人（26年8月1日時点で11万3264人）を目指す。

加木屋中ノ池駅前では、道路整備が進んでいる

土地区画整理事業が進み住宅が増加している東海加木屋中部地区



日本福祉大学の東海キャンパスの西側（上）では、新校舎が来年4月に開設予定

人口減少に対応

東海市の人口は2001年に10万人を突破し、18年には11万5千人に達した。しかし、コロナ禍の影響などによる転出超過、少子化の進展もあり、最近の人口は微減傾向にある。全国的に人口減少が加速すると予想される中、東海市は地の利を生かし都市基盤整備でまちの魅力を高め人口の維持、増加を図る。

宅地開発

都市基盤整備を目的に、東海市では土地区画整理事業が進展する。東海加木屋中部地区では25年度に造成が完了した13区画を売却。本年度は28区画の売却を見込む。残りの保留地では造成を進める計画。同地区は都市計画道路養父森岡線の整備と、鉄道高架事業により東西のアクセスが向上し、生活利便性が高い市街地に生まれ変わった。最寄りにある名鉄河和線の加木屋中ノ池駅では、南改札口が今年3月に開業。今秋には駅前広場が完成する見込み。駅前周辺では道路整備も進んでいる。

太田川駅

東海太田川駅西土地区画整理事業も、都市基盤整備にとって重要なプロジェクトの一つだ。約34万4千平方㍍の区域で商業、住宅、ホテル、物流、大学が一体化したまちづくりが進む。

この地区では、ホームセンター「カインズ東海店」、複合商業施設「フォレストモール東海太田川」がオープン。大型物流施設「プロロジスパーク東海1」も完成した。マンション、山忠が運営するビジネスホテル「ジャストイン」の建設も進む。

来年4月には日本福祉大学が現在の東海キャンパス西側に地上3階の新校舎を開設する。新校舎の敷地面積は約2万5700平方㍍、延べ床面積は約1万3500平方㍍。同大は東海キャンパスで総合政策学部と大学院社会福祉学専攻修士課程の新設に加え、美浜キャンパスから社会福祉学部を移転させる計画だ。

近隣では27年度開業に向け、西知多道路の大田インターチェンジ（仮称）整備が進展する。名古屋中心部や中部国際空港へのアクセス向上を見込む。

子育て支援

東海市は子育て支援の充実も推進している。保育園や小中学校ではトイレの洋式化や空調整備を進める。第2子以降の保育料無償化、給食食材費の値上がり分の公費負担も行う。花田市長は昨年5月に「子どもたちが未来に夢をもてるまち東海市」としてペピーファースト宣言を実施した。

都市基盤整備と子育て支援を両輪に、安心して住み続けるまちづくりに取り組む。

「伴走型支援」による地域活性化と「稼ぐ力」の最大化

東海商工会議所 会頭　岡島　威彦

物価高騰や人手不足が地域企業に影響を及ぼす中、日本経済はデフレを脱却し成長型への転換期を迎えています。当商工会議所は事業者に寄り添う「伴走型支援」を一層強化し、AI等を活用した段階的なDX推進による生産性向上や、オンライン面接の本格運用による人材確保を通じ、企業基盤の強靭化を全力で後押ししてまいります。

現在、東海市内各地で区画整理による新たな街づくりが進んでいます。また、陸海空の交通結節点でもあり、多くの進出企業による建築工事も行われています。更に、愛知県内で開催されるアジア競技大会およびパラ競技大会の好機を控え、国内外からの来訪者増による人の動きの活発化を見込み、今後も行政と両輪の如く連携し、更なる地域の賑わい創出を図ります。

当所では、大学や関係団体と協調した「チーム東海」として、商業・工業・農業・観光の多様な視点から地域発展に取り組むと共に、ふるさと納税の返礼品となる特産品の開発や地域ブランドの構築、海外販路開拓の調査等を通じて地域の「稼ぐ力」を最大化すべく、地域をつなぐ「ハブ」としての役割を果たしてまいります。

東海市特集

企画・制作　中部経済新聞社 半田支局

Hello,NIPPUKU
東海キャンパスは、
総合政策学部の開設と
社会福祉学部の移転で
５学部体制に
Reborn! Renew!
Reboot! Recreate!
2027年
新・東海キャンパス誕生
名鉄
名古屋駅から
約16分
日本福祉大学
日本福祉大学大学院
日本福祉大学中央福祉専門学校
日本福祉大学付属高等学校
日本福祉大学付属クリニックさくら
はじめまして、まちキャンパス。